

■ 2007年1月3日（水曜日）

さらなる 日本一子育て県へ

平成17年の合計特殊出生率が、全国で唯一前年から上昇し、国内外から注目を集める福井県。

新春対談

平成19年の新春を迎え、西川知事と企業経営者として社員の子育てを支援している吉村文雄さん、結婚相談員として縁結びに力を注いでいる森国俊子さんが、「子どもを産み育てやすい環境づくり」をテーマに話し合いました。



出生率が唯一上昇全国第2位に

— 昨年、福井県の少子化対策が脚光を浴びました。

知事 昨年は、女性の皆さんが一生の間に産む子どもの数、合計特殊出生率が、47都道府県の中で唯一、福井県だけが前年から上昇しました。そして順位も全国第2位となり、大変注目された年でした。

本県は、3世代同居や近居が多いなど、子育てには非常に良い環境にあります。それに加えて行政や地域の力で子育てをサポートする体制が整っているということが、そういう成果に表れていると思います。

吉村さんや森国さんには、それぞれ会社のトップ、また結婚相談員としてがんばっていただき、皆さんの力も非常に大きいと思っています。

— 子育ての経済的な不安を口にする方も多のですが。

知事 妊娠から出産、子育てまで、経済的負担が大変だという声はよくお聞きします。

若いお母さんたちにお聞きすると、「本当は子どもは3人欲しい。だけど大変だから、実際には2人」という意見も多いので、去年から特に3人目のお子さんの保育費等を3歳まで無料とする「ふくい3人っ子応援プロジェクト」をスタートさせ、3人目の子どもを持ってもらおうという強いメッセージを送っています。こういった取組みも出生率の上昇につながっているのではないかと思います。

森国 私がお世話したカップルの中にも、子どもはたくさん欲しいけれども、費用が大変だという方がいらっしやいます。そういった方のためにも、この制度は大変すばらしいと思います。

私も、最近子どもを産んだ孫に、この制度のことを話したいと思います。

吉村 私も子どもが3人おりまして、出産から育児と多くの費用がかかったことを覚えています。こういった制度は、3人目のお子さんを産んで育てようという方に非常に心強い制度だと思いますし、社員にもぜひ紹介していきたいと思います。

企業の子育て支援を後押し

一 吉村さんは、経営者の立場で従業員の子育てを支援しているそうですが。

吉村 私の会社では、社員が仕事と子育てを両立しながら、その能力を十分に発揮できるような雇用環境の整備を行うための「行動計画」を昨年策定しました。

育児休業の取得率を50%以上と目標を定めて、社員には育児支援についての資料を配布して説明をしたり、育児支援措置についての相談を受けたりしています。

また、小学校1年生までの子どもを持つ社員は、勤務時間を短縮することができ、残業や深夜勤務を制限しています。子どもの看護のための休暇も取得できるようにしています。

一 従業員の皆さんの反応はどうか。

吉村 昨年の11月から一名育児休暇に入っていますが、「育児に専念できることをうれしく感じている」、「このような環境であれば、2人目も前向きに考えることができる」という話を聞きまして、会社として育児支援に取り組むということは、社員の人生にも大いに協力できることであるし、とても大切な取り組みであると確信しました。

知事 仕事と子育てが両立する社会づくりというのは、非常に大事だと思います。

これからは企業の皆さんにもいろいろとお手伝いをしていただくことが重要であると考え、子育て支援の具体的な取り組みを行う企業を「子育て応援プラスワン宣言企業」として、ホームページで紹介したり、奨励金を支給して応援しています。

また、子育てには父親の協力も非常に大事です。そこで、全国で初めて「父親の子育てを応援する企業を表彰する制度」も設け、残業の削減や休暇など、いろいろな制度をつくっている16の企業をこれまでに表彰させていただいています。

また、今月15日に表彰式があるんですが、ある全国紙の第1回子育て支援大賞に本県が選ばれて、大変うれしく思っています。

女性の働きたいという思いや能力を生かせる社会づくりを進めるため、これからも先進的



吉村文雄 (よしむら ふみお) さん

福井市在住。㈱吉村甘藷堂社長。企業のトップとして従業員の子育てを応援する取り組みを宣言し、「子育て応援プラスワン宣言企業」に登録。

に、積極的に企業を応援したいと考えています。

保育サービスの充実

— 福井県は共働き率が日本一ですが、働きながらの子育ては、保育や病気の時が心配です。

知事 やはり育児には、周りのサポートというのも非常に大事だと思います。本県はこれが整っているからこそ、出生率が高いんですね。本県は保育所の待機者がゼロなんです。全国的に見ても、こういう県はそんなに多いわけではありません。延長保育や一時保育、病児のデイケアなどの充実も進めています。

吉村 社員が安心して働けると、仕事の効率も良くなります。しかし、どうしても残業をしなければいけない時もありますので、一時保育や延長保育が充実していると、我々経営側としても大変助かりますね。

地域の力を子育てに

— 核家族が増え、子育てに悩むお母さんも多いと聞きますが。

知事 お母さんたちが、自分だけで考えなければならぬという状況をつくってはけません。また、子育てというのは高い技術を要しますので、地域で悩みや不安をカバーしてくれる人たちが必要です。

そこで、全国に例のない「子育てマイスター制度」というものを設けて、現在、四百名を超える保育士や保健師などの専門家に、身近な場所で気軽に相談に応じてもらい、お母さんやお父さんの不安解消に取り組んでいただいています。

このシステムは、昨年発行された厚生労働白書でも、先進的でユニークな取組みとして紹介されました。



福井県知事
西川 一誠 (にしかわ いっせい)

企業や地域で
いっしょに子育て支援を

森国 私は若い方と話す機会が多いのですが、私たちが当然知っているはずと思うような子育ての知識でも、知らない方が多い。ましてや初めて子育てをされる方は、不安もいっぱいだと思いますから、こうした子育ての専門家の方がいろいろアドバイスしてくださったり、親身になって相談に乗っていただければ、とても安心で心強いと思います。

「迷惑ありがた」で出会いの場を

— 少子化対策には結婚も大きなポイントだと思いますが、結婚相談員とはどんな活動

をしているのですか。

森国 県内12地区で約200名の結婚相談員が縁結びのお手伝いをしています。それぞれの地区で相談日を設けて、結婚を希望される方にふさわしい方を紹介したりもしています。

私も福井市光陽にある県の相談所で毎週水曜日に結婚相談を承っています。

仕組みとしては、まず登録をしていただき、登録者のカードの中から自分に合った方を選び、お互いに気持ちがあれば、お見合いということになります。フィーリングが合えば、お付き合いをしていただく、そういった流れです。

一 去年、縁結びをしたカップル数は。

森国 5組あり、そのうち2組には赤ちゃんができました。昨年5月に結婚された方は2月に出産の予定です。ご家族も大変お喜びですし、私もその赤ちゃんを見せていただくのを楽しみにしています。

知事 男女が出会い、結婚するというのは、子育ての基本だと思うんですね。これまでは、ちょっとおせっかいだとか、ちょっとありがた迷惑だという世相もありましたが、やはり男女のふれあいや縁結びを応援してくれる「迷惑ありがた」と言いますか、本当はありがたいというおせっかいも必要で、こういう結婚相談員の皆さんの地域での活躍というのは非常に重要だと思います。

県では、県内に千数百店ある床屋さんやパーマ屋の皆さんにもいろいろな情報提供をしていただいて、森国さんたちと協力して、結婚を促すようなネットワークづくりに力を入れています。

県では、県内に千数百店ある床屋さんやパーマ屋の皆さんにもいろいろな情報提供をしていただいて、森国さんたちと協力して、結婚を促すようなネットワークづくりに力を入れています。

知事 森国さんたちのご協力で、17年度は43組、今年度はこれまでに37組のカップルが誕生しています。今年もさらに増えるようにがんばっていただきたいと思います。

縁結びをお手伝いして、
たくさんさんの赤ちゃんが見たい



森国俊子 (もりくにとしこ) さん

福井市在住。6年前から福井県婦人福祉協議会の結婚相談員として、数多くのカップルの縁結びに力を注いでいる。

今後の目標

一 最後に今後の目標を。

吉村 今後も社員のために、子育て支援に率先して取り組んでいきたいと思っています。

森国 相談員として、1組でも多くのカップルが誕生するように努めたいと思います。そして、かわいい赤ちゃんを見せていただきたいと思います。

知事 去年は、子育て日本一の福井県が十分PRされましたが、今年も吉村さんや森国さんたちと力を合わせて、さらなる日本一子育て県を目指したいと思います。

 **BACK**
